

寒國に於ける種子の取扱

答 固より害なし寒地は猶更寒氣になれしむべし然るに種穀を態々屋内へ持込み剥さへ久しく燻上に釣下げ置くものあり以の外の事あり斯く愛護を受けたる種子は病身となりて實用に適せず是れ其天然に背くを以てあり

問 苗を植うる時根の泥を拂はざるも宜しきや

答 泥の着きたる儘にては宜しからず必ず能く洗ひ落し白根を切詰めて植うへし

問 稲は水草に非すとのことは未だ了解せず猶之れを承りたし

答 降雨の時苗代へ泥の流れ込みて種子を埋むる事あり其時水を落し田を干せば發芽すれども若し水を落さざる時は遂に發芽する事あり現に此等を目撃せば自から了解することあるへし

問 肥料の用ひ方につき委しく承りたし

答 肥料の用ひ方は尤も熟練を要するものにて實は肥料をくして物を作る技倆なければ肥料の用ひ方は語られぬ程のものなり先づ直接肥料の植物を害する事を夏野菜に試み一旦其害を知ればこやしは土を肥すの本旨を悟るへし倍土を肥すの方は人に馳走を供する如く満腹の後は山海の珍味も無益されは能く土を干つけ晴天に鋤起し成るへく土壤の腹を透させ用ゆる肥料を充分に吸収せしむるやう工夫する事肝要あり

問 普通の植付は一株に少きも五六本多きは三四十本あるか如何のものにや

厚時密植は昔年体裁農業の遺物

答 一坪に一升も二升も蒔つけ一株に三十本も四十本も植つけ收穫の如何を構はず一時の見場をよくして主人を悦ばせ主人も金あればとて勝手に遣ふ事を得ず御用金の心配もある昔の時代されは只体裁よく農事を爲せば済たれども今日は時世代りて先づ一家の富實を努め施ひて一國の富強を養成せざるべからざれば昔の体裁農業を一變して經濟農業の方針を取らざるべからず抑穀數升を蒔されは苗代とあらす數十本を植へざれば一株とあらざるは自から苗の不完全を証據立つるものにして苗の正當に出來たるものは一本より多くは植へられざる筈のものあり數十本植うればとて數十本の穂に成るべきものに非ず其内半數は外の邪魔をする迄のものあり又何の草木も數本を一所に植込み其結果の宜しきものあるへからず試に思へ人間とても赤子の時より身動きもあらぬやう大勢一室に押込み置かば何程手をあずすも決して健康の子あるべからず厚時密植は種穀拜借等の關係よりして体裁農業の昔の遺物と心得べし

問 醸肥製造の分量は如何

答 五石入の桶なれば風呂汁三石人馬の糞各二荷焼酎粕五六十斤草及び糞等は適宜に入るへし

問 當國の米質佳良ならざるは全く地味の關係なるか

答 越中の地味は上等なり曾て東京の米商か全國の米を九等に分ちて品評せし時越中米の其八等に位せしは是れ佗なし畔樹の多きと掛け水の常に深さに過るとはぎに久しく掛け置きて風雨に

上等の地味に下等米を作る

醸肥製造の分量

曝す等に依りて米質を損ずればかり決して地質のために非ず日本は固より空國を通して上等に位せり抑地味氣候を論ずるは人事を盡して後の事を知るべし

問 先生か十一年前當國を巡回されたる時と今日との農況如何

答 今回到る處乾田の殖へたると畔樹の減りたるとは大に余の悦ぶ所なり

問 年々全種の稻を作るは不利益なるや

答 毎年全種類の稻を作れば收穫次第に劣るものなり必ず交換するを利益ありとす然れども種子は遠國より求むるに及ばず若き全縣下にあらずんば氣候相似たる隣國より之れを求むべし其理由は暖國の早稻は寒國の晩稻と變し寒國の晩稻は暖國の早稻と變するか如く其目的を達せざる事多し其之れを求むる必しも多きを要せず二十粒あらは足れりとする種子を得たる時は其中の最も大なるものと最も小なるものと二粒を撰ひ糊皮を剥き米質を鑑定し果して佳良あらは其殘余を蒔き彌其地に適するを認めて之れを繁殖せば數年ならずして一村内の種子を改良する事を得べし
該筆記は林老農の校閱を歴へき善なりしも稻作季節に促され其暇なく或は老農の意に満たざる所なきを保せず讀者之れを諒せよ

畔樹の殖へたるの英
稻種改良

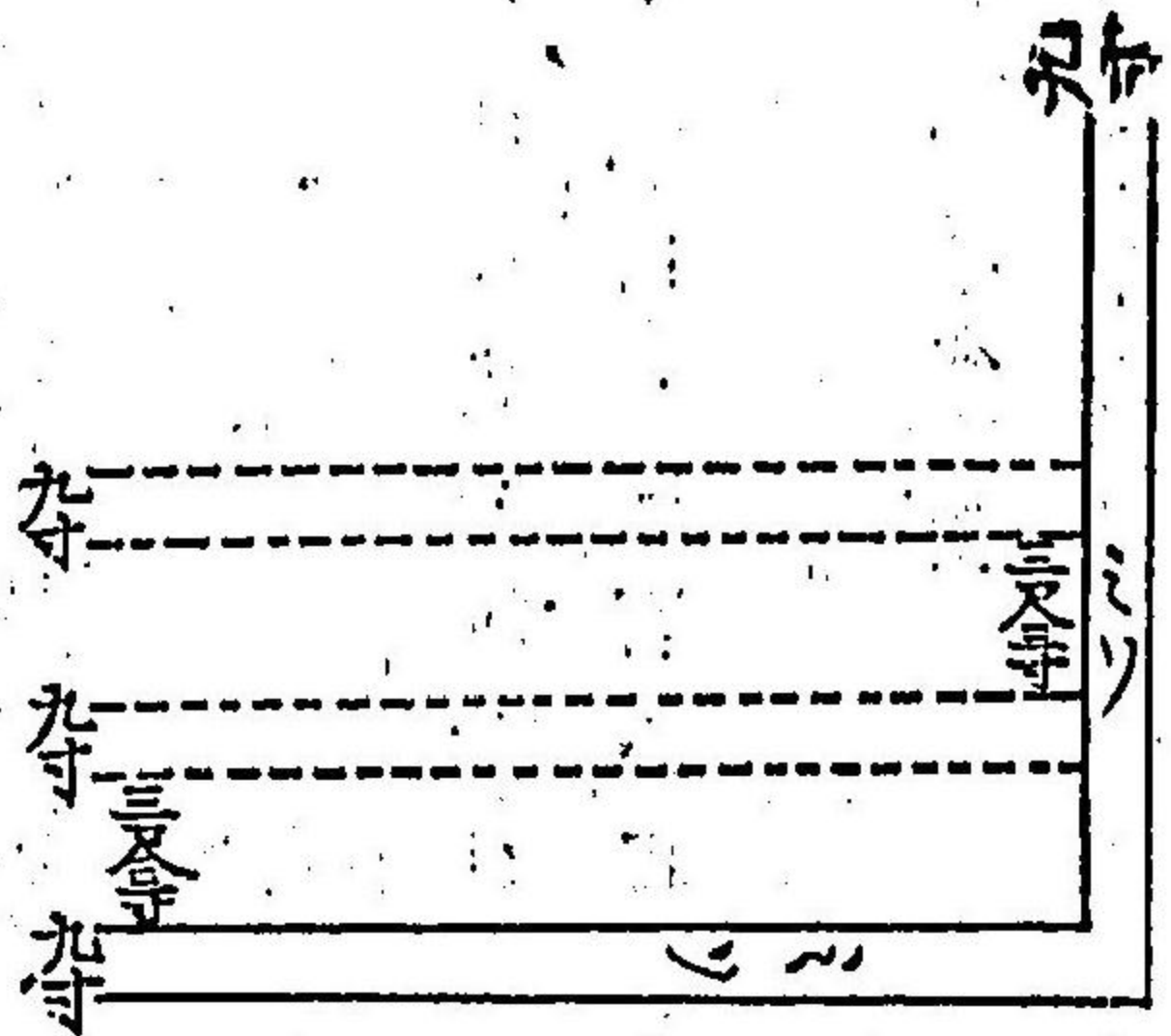
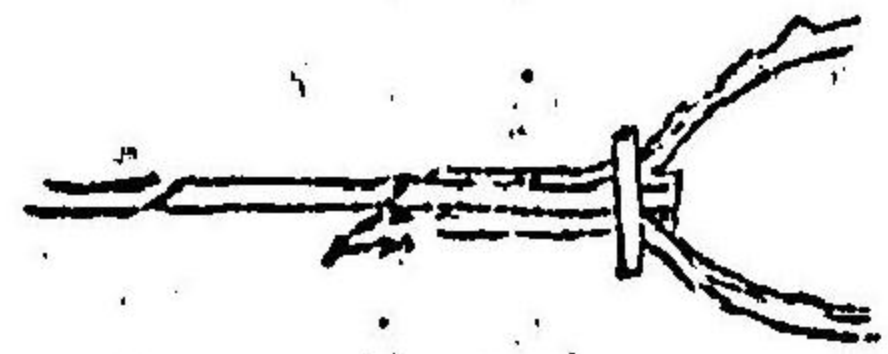
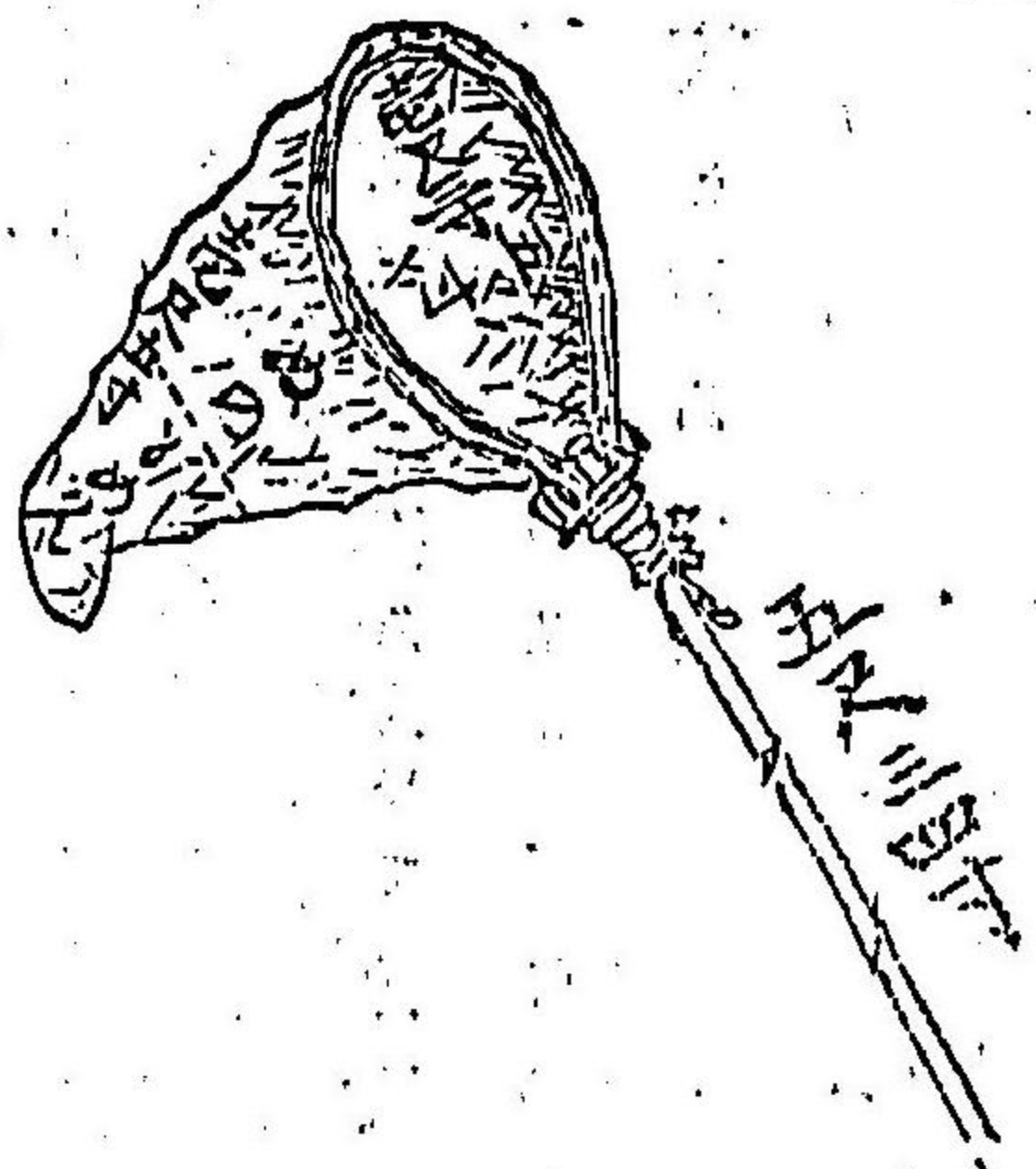
畑の三尺苗代細張の圖

第一圖

林老農の話に收穫の多少は苗の善惡によるものにて苗代はと大切のものおく恐るべき蟲害も多くは苗代の内に始まるものあり世の農家これに心付かず足も踏込まれず手もとぐかさる程廣き苗代を作りて顧みざるは笑止千萬なり余は多年農事の改良は三尺苗代より始まると主張し蟲も草も勝手に取り得らるゝ三尺苗代を勤むるあり

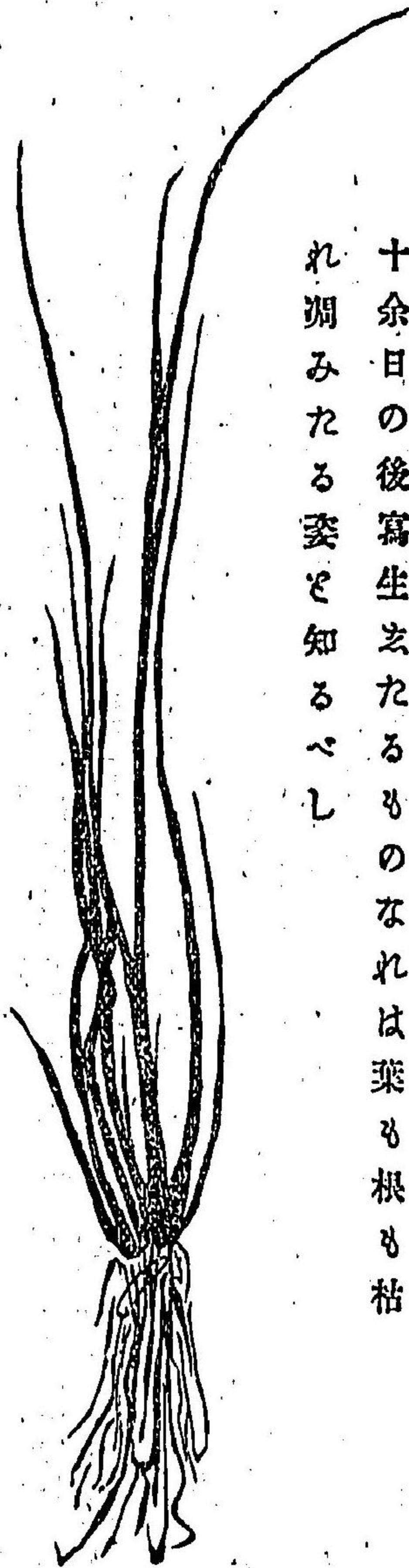
第二圖

蟲とりたりの圖



第三圖

第一圖より第五圖に至るまで皆拔取りてより
十余日の後寫生せたるものなれば葉も根も枯
れ凋みたる姿と知るべし



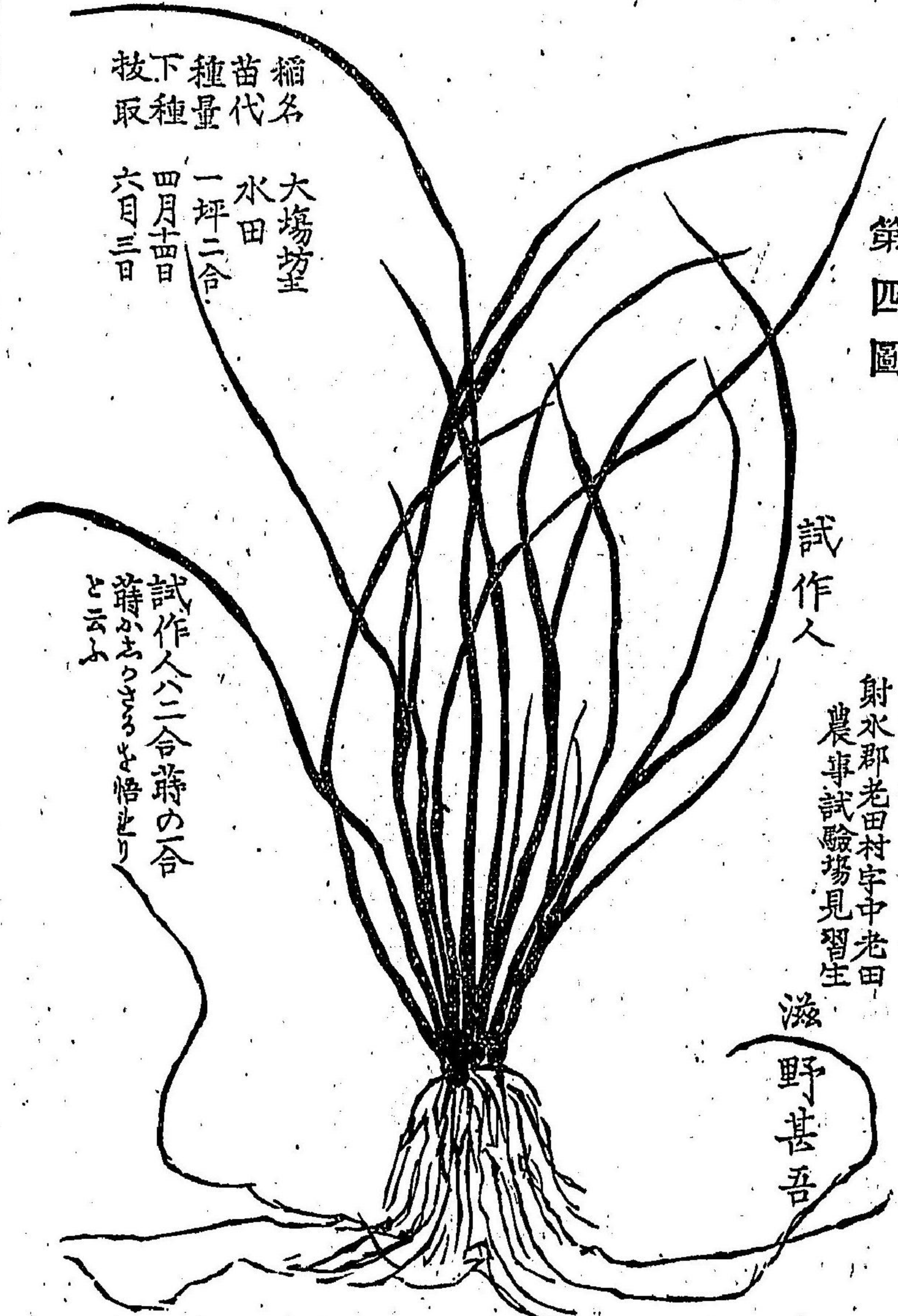
稻名 石白
畑苗は丈短く根少けれども植付け
て十日はかりを經れば其發育水田
種量 一坪壹合 苗にまさるあり
下種 十二月廿一日 農事試験場礪波第一支部主任
拔取 六月七日 試作人 大野正道

第四圖

試作人

射水郡老田村宇中老田
農事試験場見習生

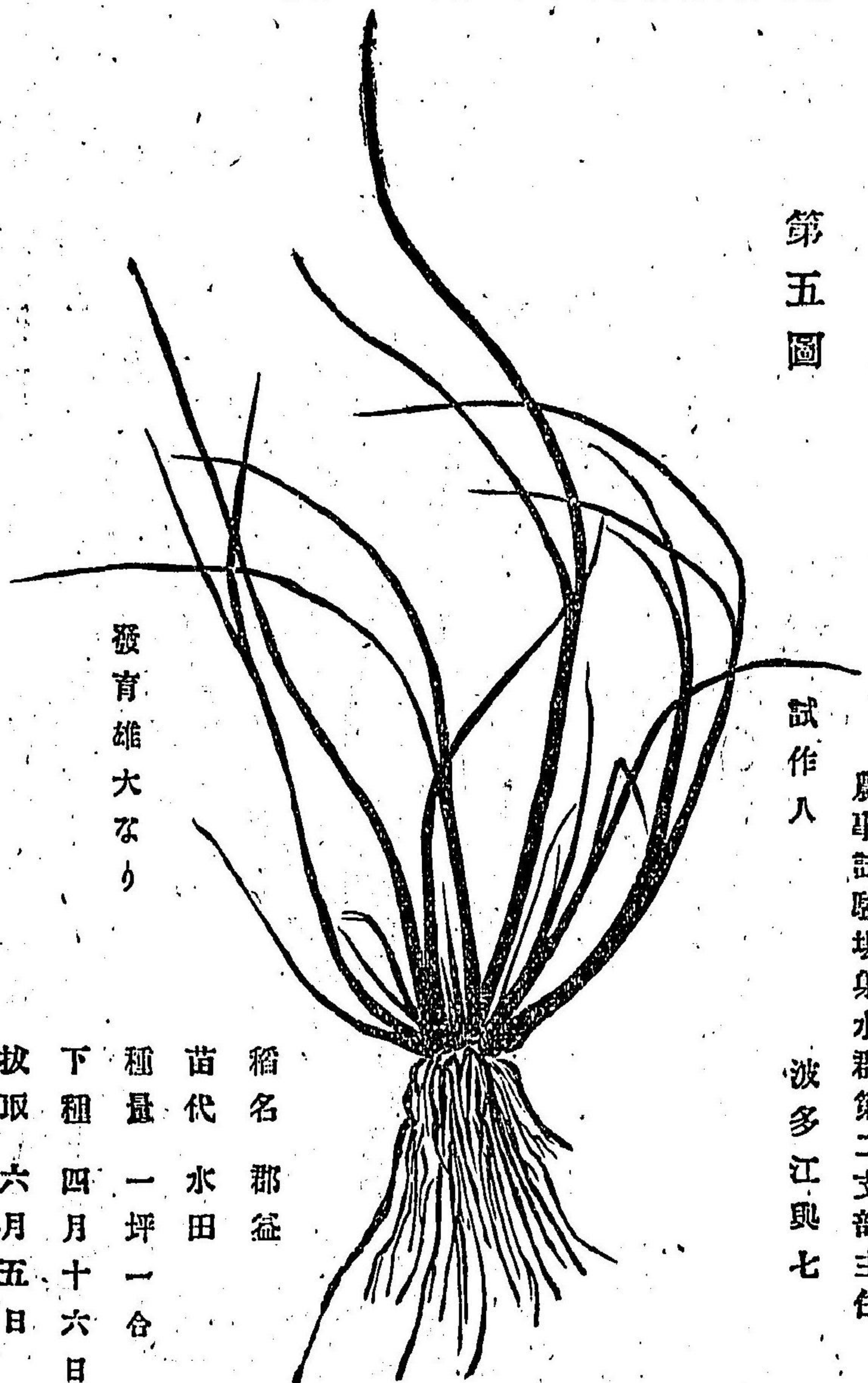
滋野甚吾



稻名 大場莖
苗代 水田
種量 一坪二合
下種 四月十日
拔取 六月三日

試作人二合蒔の二合
蒔かたより二合を悟せり
と云ふ

第五圖



農事試験場射水郡第二支部主任
試作人 波多江與七

發育雄大なり

稲名 郡益
苗代 水田
種量 一坪一合
下種 四月十六日
拔取 六月五日

第六圖



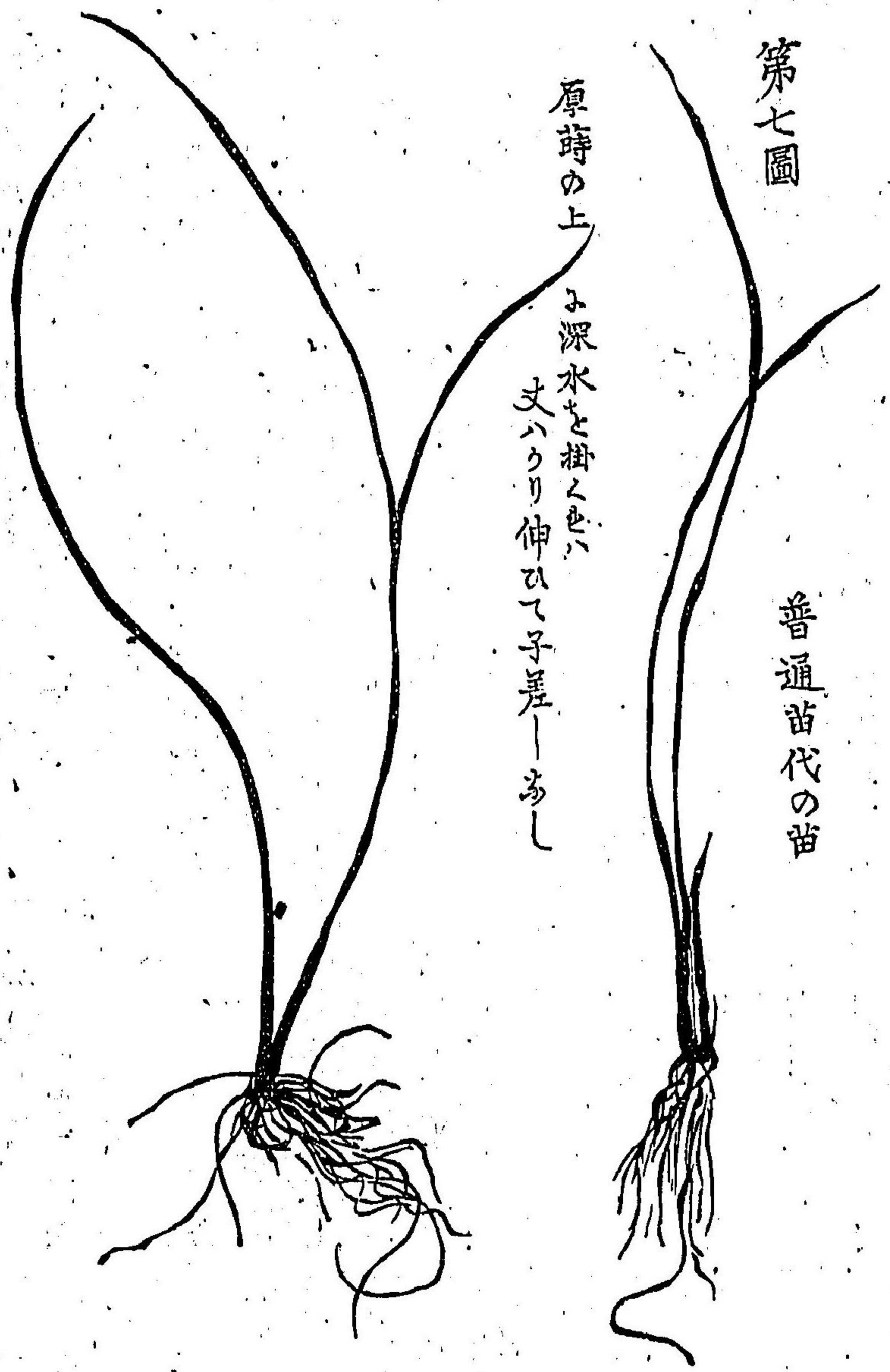
農事試験場
射水郡第二支部主任
試作人 波多江與七

稲名 石白
苗代 水田
種量 一坪八勺
下種 四月十七日
拔取 六月五日

一合蒔に比すれば丈
短くして根に力あり

第七圖

普通苗代の苗



第十五類

行政警察

● 縣令第二十一號 明治二十七年三月二日

明治二十三年二月 縣令第十一號貸坐敷娼妓取締規則第四十條中毎月五日トアルヲ毎月十日ト改メ明治二十七年ヨリ施行ス

● 縣令第三十三號 明治二十七年五月十一日

明治二十六年十一月 縣令第七十八號新庄警察署ノ位置「百一番地」トアルヲ「百七十二番地」ト更メ且ツ位置ノ下「新庄警察署及ヒ」ノ七字ヲ删除ス

● 縣令第三十四號 明治二十七年五月十八日

消防組規則施行細則左ノ通相定メ即日ヨリ施行ス
消防組規則施行細則目次

- 第一章 組織
- 第二章 分掌
- 第三章 命免
- 第四章 職務權限

第五章 服務心得

第六章 巡檢及演習

第七章 警 戒

第八章 信 號

第九章 器 具

第十章 被 服

第十一章 徽 章

第十二章 給 與

第十三章 賞 與

第十四章 懲 戒

附 則

消防組規則施行細則

第一章 組 織

第一條 消防組設置區域及其定員ハ設置ノ都府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 消防組ハ其設置區域ノ市町村名又ハ大字名ヲ冠稱ス其數部ニ分割シタルモノハ第何部ト

分稱ス

第三條 消防組ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

組 頭 一 人

小 頭

消防手三十人ニ付二人トス十五人乃至二十人ヲ増ス毎二人ヲ加フ

消防手 三十人以上

數部ニ分ツトキハ每部小頭及消防手ノ人員ハ前項ノ例ニ依ル

第二章 分 掌

第四條 消防組ニ左ノ掛ヲ置ク但警察署長又ハ分署長ハ土地ノ情況ニ依リ掛ヲ増加スルコトヲ得

火防ニアリテハ

一 唧筒掛 又ハ龍吐水掛

唧筒又ハ龍吐水ノ使用ヲ擔任シ且運水ニ從事スルモノトス

一 火先掛

梯子窓口斧等ヲ使用シ專ラ火勢ノ防禦ニ從事スルモノトス

水防ニアリテハ

一 水防掛

家屋道路橋梁堤防等ノ保護ニ従事スルモノトス

一 通船掛

通船ニ乗込ミ諸人ノ交通及家財給水ノ運搬ニ従事スルモノトス

第五條 第四條ノ諸掛ハ現場ニ於テハ緩急ニ應シ互ニ補助スルモノトス

第三章 命 免

第六條 消防手ハ其區域内ニ現任スル者ヨリ採用ス

第七條 消防手ヲ志願シ若クハ辭職セントスル者ハ組頭ヲ經由シテ所轄警察署長又ハ分署長ニ願
出ツヘシ

第八條 警察署長又ハ分署長ニ於テ消防手身体ノ衰弱ニ依リ消防ニ従事スルコト能ハス又ハ其職
ニ適セサル者ト認ムルトキハ解職スルコトヲ得

第四章 職務權限

第九條 警察署長又ハ分署長ハ所轄内ノ消防組ヲ指揮監督ス

第十條 警察署長又ハ分署長ハ儀式訓練及水火災ニアラサル他ノ災害ノ爲メ消防組ノ集合運動ヲ
命スルコトヲ得

第十一條 警察署長又ハ分署長ハ消防手ニ第四條ニ規定シタル分掌ヲ命スヘシ又小頭ニ分掌ヲ命

スルコトヲ得

第十二條 消防組ヲ數部ニ分チタルトキハ警察署長又ハ分署長ハ小頭ニ其部長ヲ命スルコトヲ得

第十三條 組頭ハ警察官ノ命ヲ受ケ其部下ノ指揮取締ニ任シ組内一切ノ庶務ヲ掌理ス

第十四條 小頭ハ組頭ヲ補佐シ組頭事故アルトキハ年長ノ小頭之ヲ代理ス

第十五條 組頭小頭ハ常ニ組内消防手ノ行狀ニ注意シ消防組ニ關スル諸規則ニ違反シ其他懲戒ニ
付スヘキ所爲アリト認ムルトキハ小頭ハ組頭ニ組頭ハ警察署長又ハ分署長ニ申告スヘシ

第十六條 組頭ハ組員名簿及器具目錄ヲ調製シ其異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第十七條 組頭ハ器具ニ關スル調書ヲ製シ毎年十二月警察署長又ハ分署長ノ檢閲ヲ經テ市參事會
又ハ町村長ニ報告スヘシ

第五章 服務心得

第十八條 組員ハ警察官ノ指揮命令ニ服從シ尙ホ消防手ハ組頭小頭ノ指揮ヲ承ケ警戒防禦ニ従事
スヘシ

第十九條 組員ハ常ニ親睦ヲ旨トシ行狀ヲ慎ミ協同一致其職務ニ従事スヘシ

第二十條 組員ハ暴風又ハ大雨ノ際ニシテ水火災ノ虞アルトキハ豫メ出場ノ準備ヲ爲スヘシ

第二十一條 組員ハ水火災アルトキハ直ニ規定ノ服裝ヲ爲シ器具ヲ携帶シ迅速現場ニ駆ケ付クヘ

二十二條 組員ハ區域外應援ノ信號ニ聞キタルトキハ警察官ノ指揮ニ從ヒ迅速現場ニ駆ケ付ケ
應援スヘシ

二十三條 組員ハ職務ニ服スルトキハ勿論平常タリトモ他人ニ對シ強迫カマシキ所爲又ハ爭鬪
等粗暴ノ舉動ヲ爲スヘカラス

二十四條 組員ハ警察官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ服務外ニアリテ多衆集合シ又ハ規定ノ服
裝ヲ爲スコトヲ得ス

二十五條 組員ハ水火災ノ防禦ニ際シ警察官ノ命ナクシテ家屋其他ノ建造物等ヲ破壊スヘカ
ラス

二十六條 組員ハ防禦ノ事既ニ終ルト雖モ警察官ノ點檢ヲ受クルニアラサレハ退場スルヲ得ス

二十七條 組員小頭疾病事故等ニテ服務シ難キトキ又ハ旅行セントスルトキハ其旨警察署長又
ハ分署長ニ届出ツヘシ

二十八條 組員ハ其職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ總テ警察署長又ハ分署長ノ許可ヲ得ル
ニアラサレハ他ヨリ財物又ハ糞等ヲ受クルコトヲ得ス

第六章

巡檢及演習

二十九條 警察署長又ハ分署長ハ毎年一月四月七月十月ニ消防組ヲ巡檢シ紀律ノ保持器具ノ完
備等ヲ監査シ且規則其他職務上緊要ナル條件ヲ訓示スヘシ但時宜ニ依リ其期月ヲ變更スルコト
ヲ得

三十條 警察署長又ハ分署長ハ巡檢ニ際シ毎年一回期月ヲ定メ消防組ヲ召集シ迅速應變ノ準備
及器械運轉ノ方法等ヲ演習セシムヘシ但時宜ニ依リ臨時演習ヲ爲サシムルコトヲ得

三十一條 巡檢及演習ハ組毎ニ之ヲ行フヘシ時宜ニ依リ數組ヲ合併シ執行スルコトヲ得

第七章 警戒

三十二條 警察署長又ハ分署長ハ水火災警戒ノ必要アルトキハ組員ヲシテ迅速應變ノ準備ヲ爲
サシメ又ハ其區域内ヲ巡邏セシムヘシ

第八章 信號

三十三條 水火災ヲ報スル爲メ消防組設置區域内便宜ノ場所ニ火ノ見櫓又ハ火ノ見柵子及半鐘
ヲ設備シ擔當者ヲ置キ信號ヲ報セシム但水害ニアリテハ大鼓又ハ盤木ヲ用非ルコトヲ得信號擔
當者ハ警察署長又ハ分署長之ヲ指定スヘシ

三十四條 火ノ見櫓又ハ火ノ見柵子ノ位置構造及其數ハ警察署長又ハ分署長之ヲ指定ス

三十五條 信號打方左ノ如シ

一 連打 ○—○—○—○—○—○ 近傍又ハ急激ノ災害ナリト認ムルトキ

一 三點 ○—○—○—○—○—○ 區域内

一 二點 ○—○—○—○—○—○ 區域外ト雖モ應援又ハ警戒ノ必要アリト認ムルトキ

一 一點 ○—○—○—○—○—○ 鎮靜ノトキ

第九章 器具

第三十六條 消防組ニ左ノ器具ヲ備フ其數部ニ分割シタルモノハ毎部ニ之ヲ備フ但土地ノ情況ニ

依リ器具ヲ増減スルコトヲ得

火防ニアリテハ

一 繩

一 旗

一 高張提灯

一 提灯 (組頭ハ騎馬提灯小頭以下ハ弓張提灯)

一 唧筒 (土地ノ情況ニ依リ龍吐水ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得)

一 大桶

一 小桶又ハ布袋

一 槽子

一 刺叉

一 引綱

一 鴛口

一 斧

一 鋸

水防ニアリテハ

一 旗

一 高張提灯

一 提灯 (組頭ハ騎馬提灯小頭以下ハ弓張提灯)

一 通船並屬具

一 通船旗及鈴

一 船燈

一 斧

一 鋸

一 鍬
 一 鍬
 一 大槌
 一 俵
 一 蒺
 一 麻網
 一 藁繩

第三十七條 警察署長又ハ分署長ハ第三十六條ニ掲クル消防器具ノ員數ヲ定メ又ハ種類ヲ増減セントスルトキハ之ヲ指定スヘシ

第三十八條 消防器具ハ總テ組頭又ハ小頭ニ於テ之ヲ保管スヘシ其携帯スヘキ器具ニ限リ組員ニ貸與スルコトアルヘシ

第三十九條 器具ノ修繕若クハ新調ヲ要スルトキハ組頭ヨリ警察署長又ハ分署長ニ申出ツヘシ警察署長又ハ分署長ハ市參事會又ハ町村長ニ移牒シテ之ヲ爲サシムヘシ

第四十條 消防器具ノ置場ハ設置區域内ニ其數部ニ分割シタルモノハ每部ニ設置ス其位置及構造ハ警察署長又ハ分署長之ヲ指定ス

第四十一條 通船定繫場ハ區域内便宜ノ地ニ設置ス其位置ハ警察署長又ハ分署長之ヲ指定ス

第十章 被服

第四十二條 組員ニ左ノ被服ヲ給與ス

- 一 頭巾
- 一 半纏

第四十三條 被服ハ保存期限ヲ定メス實用ニ堪フル限り之ヲ使用セシム但解職シタルトキハ還納スヘシ

第四十四條 被服ノ新調又ハ補修ヲ要スルトキハ第三十九條ノ例ニ依ル

第四十五條 組頭ハ警察署長又ハ分署長ノ認可ヲ受ケタル洋服及帽子ヲ着スルコトヲ得

第十一章 徽章

第四十六條 消防組ノ旗及提灯ノ徽章左ノ如シ

- 一 旗及高張提灯ハ其上部ニ幅三寸ノ黑色及赤色ノ横線各一條ヲ附シ其下ニ組名及部名ヲ記載ス
- 一 組頭及小頭用ノ提灯ハ其上部ニ幅一寸ノ黑色及赤色ノ横線各一條ヲ附シ前面ニ組名及部名ヲ記シ其側ニ職名ヲ附記スヘシ

一 消防手用ノ提灯ハ其上部ニ幅一寸ノ赤色横線一條ヲ附シ前面ニ組名及部名ヲ記シ其側ニ消防手ノ三字ヲ附記ス

第四十七條 組員ノ服章左ノ如シ

一 半纏ニハ總テ背部及襟ニ白字ヲ以テ組名及部名ヲ記シ尙ホ襟ニ職名ヲ記ス

組頭ハ肩ニ幅一寸五分ノ赤線二條小頭ハ同線一條ヲ附ス

組頭ニ於テ洋服ヲ用ザルトキハ袖ニ幅一寸及三分ノ赤色横線各一條ヲ附ス

第十二章 給與

第四十八條 組員ニ職務手當死傷手當ヲ給與スルトキハ警察署長又ハ分署長ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム但年手當ヲ給スル場合ト雖モ消防手ニ限リ給與セサルコトアルヘシ

一 職務手當

組頭 金貳拾圓以内
小頭 金拾圓以内

年手當 消防手 金三圓以内

一 死傷手當

祭 祀 料 金拾圓以内

遺族扶助料 金七拾圓以内

癱疾扶助料 終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者 金五拾圓以内
終身不具トナルモ自用ヲ辨シ得ル者 金三拾圓以内

療 治 料 一日金五拾錢以内但場合ニ依リ實費ヲ給スルコトアルヘシ

第四十九條 出場手當ハ水火災及巡邏又ハ演習其他警察官ノ指揮ニ依リ召集セシ場合ニ限リ給與ス但巡檢ノ場合ハ給與セス

第五十條 死傷手當ハ職務ノ爲メ死傷シタル場合ニ一時限リ給與ス

第五十一條 職務手當死傷手當ノ支給方法ハ警察署長又ハ分署長ニ於テ之ヲ定ム

第五十二條 出場手當ノ外蠟燭代及辨當料ヲ支給スルトキハ警察署長又ハ分署長之ヲ定ムヘシ但

現物ヲ以テ支給スルコトヲ得

第十三章 賞與

第五十三條 消防組若シハ部又ハ組員ニシテ職務上左ノ各項ニ該當スル者ハ賞與スルコトアルヘシ

一 家屋密接ノ場所ヨリ出火シタルモ他ニ延燒セシメス若クハ烈風ノ際大火ニ至ラシメス特別功勞アル者

二 堤防ノ破壊セントスルトキ若クハ家屋橋梁ノ流失セントスルヲ防止シ特別功勞アル者

三 危險ヲ冒シテ防禦ニ從事シ其職分ヲ全フシタル者

- 四 出火セントスルヲ直ニ消止メ其他消防上特別功勞アル者
- 五 樞要ナル場所ノ防禦ニ盡力シ特別功勞アル者
- 六 率先他ニ超ヘ現場ニ駆ケ付ケタル組又ハ部

第五十四條 賞與ヲ分テ左ノ三種トス但賞票ヲ與フルトキハ併セテ金員ヲ與フルコトアルヘシ

- 一 賞票
- 二 賞狀
- 三 金員ハ組員ニアリテハ五圓以内トス
賞票ハ組又ハ部ニ與フルモノハ纏ニ附シ組員ニ與フル者ハ胸間ニ佩フルモノトス
金員ハ組又ハ部ニアリテハ貳拾圓以内組員ニアリテハ五圓以内トス

第十四章 懲戒

第五十五條 懲戒ヲ分テ左ノ四種トス

- 一 解職
- 二 停職
- 三 停給
- 四 罷責

明治二十七年六月廿九日
令第九十號
テ第三項以テ追加ス

停職ハ一年以内停給ハ年手當十二分ノ三以内トス

第五十六條 組員ニシテ左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ其情狀ノ輕重ヲ量リ第五十五條ニ依リ處分ス但解職ニ處シタルトキハ賞票ヲ視奪ス

- 一 消防組ニ關スル諸規則又ハ警察官若クハ組頭小頭ノ指揮命令ニ違背シタル者
- 二 勤務中ハ勿論平常他人ニ對シ強迫カマシキ舉動又ハ傲慢粗暴ノ所爲アル者
- 三 職務ニ怠慢又ハ勤務中濫リニ進退ヲ爲シタル者
- 四 他組ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 喧嘩口論ヲ爲シタル者
- 六 濫リニ建造物ヲ破壊シタル者
- 七 濫リニ消防器具ヲ毀損シタル者

附 則

第五十八條 此細則施行前ニ調製シタル旗提灯被服ニシテ此細則第四十六條第四十七條ニ適セサルモノト雖モ使用ニ堪フルモノハ假リニ之ヲ用ルコトヲ得

●縣令 第三十五號 明治二十七年五月十八日

消防組設置區域及其人員別表ノ通相定メ即日ヨリ施行ス
(別表)

明治二十二年十一月七日
警察官制改正
第十號

消防組名	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
富山消防組	富山一市	內 三百十九人 組頭 一人 小頭 十八人 消防手 三百人	第一部 第二部 第三部 第四部 第五部 第六部	小頭 五人 消防手 三十人 小頭 五人 消防手 三十人 小頭 五人 消防手 三十人 小頭 五人 消防手 三十人 小頭 五人 消防手 三十人
東岩瀨消防組	上新川郡東岩瀨町一圓	內 五十八人 組頭 一人 小頭 三人 消防手 四十六人	第一部 第二部 第三部	小頭 三人 消防手 二十八人
滑川消防組	上新川郡滑川町一圓	內 百一十一人 組頭 一人 小頭 六人 消防手 百四人	第一部 第二部 第三部	小頭 三人 消防手 二十八人 小頭 三人 消防手 二十八人 小頭 三人 消防手 二十八人

消防組名	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
東水橋消防組	上新川郡東水橋町一圓	內 五十八人 組頭 一人 小頭 三人 消防手 四十六人	第一部 第二部 第三部	小頭 三人 消防手 二十八人
西水橋消防組	上新川郡西水橋町一圓	內 三十三人 組頭 一人 小頭 二人 消防手 三十人	第一部 第二部 第三部	小頭 二人 消防手 十八人
上市消防組	上新川郡上市町一圓	內 五十八人 組頭 一人 小頭 三人 消防手 四十六人	第一部 第二部 第三部	小頭 三人 消防手 二十八人
魚津消防組	下新川郡魚津町一圓	內 百二十七人 組頭 一人 小頭 六人 消防手 百二十人	第一部 第二部 第三部	小頭 三人 消防手 二十八人 小頭 三人 消防手 二十八人 小頭 三人 消防手 二十八人
三日市消防組	下新川郡三日市町一圓	內 四十八人 組頭 一人 小頭 二人 消防手 三十七人	第一部 第二部 第三部	小頭 二人 消防手 十八人
入善消防組	下新川郡入善町一圓	內 三十三人 組頭 一人 小頭 二人 消防手 二十八人	第一部 第二部 第三部	小頭 二人 消防手 十八人

泊消防組	生地消防組	八尾消防組	四方消防組	高岡消防
下新川郡泊町一圓	下新川郡生地町二圓	婦負郡八尾町一圓	婦負郡四方町一圓	高岡市一圓
內五十人 消防組頭一 消防手四十六人	內五十人 消防組頭一 消防手四十六人	內六十人 消防組頭一 消防手五十六人	內五十人 消防組頭一 消防手四十六人	內二百一十一人 消防組頭一 消防手二百人
第五部	第一部	第一部	第二部	第二部
消防手三十人	消防手四十六人	消防手五十六人	消防手四十六人	消防手二百人
三八六				

新湊消防組	小杉消防組	伏木消防組	大門消防組	氷見消防組
射水郡新湊町一圓	射水郡小杉町一圓	射水郡伏木町一圓	射水郡大門町一圓	射水郡氷見町一圓
內二百二十七人 消防組頭一 消防手二百人	內五十人 消防組頭一 消防手四十六人	內五十人 消防組頭一 消防手四十六人	內三十三人 消防組頭一 消防手二十八人	內二百二十七人 消防組頭一 消防手二百人
第五部	第一部	第一部	第一部	第一部
消防手四十二人	消防手四十六人	消防手四十六人	消防手二十八人	消防手二百人
三八七				

出町 消防組	礪波郡出町 一團	五十人 內 組頭 一 消防手 四十六人	第一部	小頭 消防手	二十八人 二十八人
井波 消防組	礪波郡井波 町一團	八十一人 內 組頭 一 消防手 七十六人	第一部 第二部	小頭 消防手	三十八人 三十八人
福野 消防組	礪波郡福野 町一團	三十三人 內 組頭 一 消防手 二十八人	第一部	小頭 消防手	二十八人 二十八人
城端 消防組	礪波郡城端 町一團	五十人 內 組頭 一 消防手 四十六人	第一部	小頭 消防手	二十八人 二十八人
石動 消防組	礪波郡石動 町一團	百二十七人 內 組頭 一 消防手 二百二十八人	第一部 第二部 第三部	小頭 消防手	四十二人 四十二人 四十八人
福岡 消防組	礪波郡福岡 町一團	四十人 內 組頭 一 消防手 三十七人	第一部	小頭 消防手	二十八人 二十八人

福光 消防組	礪波郡福光 町一團	百三十人 內 組頭 一 消防手 九十六人	第一部 第二部	小頭 消防手	四十八人 四十八人
戸出 消防組	礪波郡戸出 町一團	四十人 內 組頭 一 消防手 三十七人	第一部	小頭 消防手	二十八人 二十八人

●縣令第四十三號 明治二十七年七月二十二日

明治二十六年三月十二日 富山縣令第八十號四方警察分署位置「二千二百九十二」ヲ「三」ト更メ之ヲ本位置トス

●縣令第五十一號 明治二十七年九月十四日

明治二十六年三月三十一日告示第十六號石動警察署戸出分署位置ヲ戸出町大字戸出村五千二百九十一番地ノ二ハ本月十六日ヨリ移轉ス

●縣令第五十四號 明治二十七年十月四日

火災豫防ノ爲メ建物制限規則左ノ通相定ム

但此規則ヲ施行スヘキ市町村ハ別ニ縣令ヲ以テ之ヲ指定ス

建物制限規則

第一條 家屋倉庫納屋其他ノ建物ヲ新築又ハ改造セントスルモノハ左ノ制限ニ從ヒ其建物ノ種類場所及建築ノ方法書並ニ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但改造ニ係ルモノハ其部分ノミ制限ニ依ルヘシ

一屋上ハ瓦石其他ノ不燃質物ヲ以テ葺クヘシ但瓦下ニハ必ス土ヲ用フヘシ

一周圍ハ土壁其他ノ不燃質物ヲ以テ築クヘシ但一時ニ施行シ難キモノハ板張ヲ許スコトアルヘシ

第二條 火災其他ノ災害ニ依リ家屋ヲ消失シ又ハ破潰シタルトキハ假家屋ヲ建設スルコトヲ得ヘシト雖モ罹災後一ノ年ヲ限リ此規則ニ依リ改造スヘシ但假家屋ハ公道ヲ距ル六尺以上ニシテ礎ヲ用ササルモノトス

假家屋ヲ建設セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三條 新築又ハ改造ノ工事落成シタルトキハ使用前所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ若シ其構造第一條ノ制限ニ適セサルトキハ期日ヲ定メテ其部分ノ改造ヲ命スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スヘキ市町村ト雖モ其狀況ニ依リ特ニ部分ヲ限リ制限ニ依ラヌシテ建築ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 此規則ニ違背シタルモノハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

●縣令 第五十五號 明治二十七年十月四日

本年十月縣令第五十四號建物制限規則ヲ左ノ市町ニ施行ス

富山市

高岡市

射水郡伏木町

●縣令 第五十六號 明治二十七年十月四日

毎年十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル迄ノ外市街地ニ於テ家屋倉庫納屋其他ノ建物ニ葺扒杉皮ノ類ヲ以テ雪圍ヲ爲スコトヲ禁ス

本令ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ料料ニ處ス

●縣令 第五十七號 明治二十七年十月四日

明治二十年四月縣令第四十八號ヲ廢止ス

▲縣令第五十七號參照

縣令第四十八號(明治二十年四月二十八日)ハ火災豫防ノ爲メ家屋制限ノ件ナリ

●縣令第七十三號 明治二十七年十二月七日
 明治二十六年^{十二}月^{十二} 縣令第八十號古里警察分署位置「三千九百六十八番地」ヲ「三千九百三十七番地」ト更メ之ヲ本位置トス

●縣令第七十四號 明治二十七年十二月二十一日
 左ノ箇所ニ消防組ヲ新設シ其區域人員別表ノ通相定ム

(別表)

消防組名	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
櫻谷	婦負郡 櫻谷村一圓	三十三人 內 小頭一人 頭二人 消防手二十八人		
堀岡	射水郡 堀岡村一圓	三十三人 內 小頭一人 頭二人 消防手二十八人		
海老江	射水郡海老江村一圓	三十三人 內 小頭一人 頭二人 消防手二十八人		

●告示第五十四號 明治二十七年五月三十一日

一般人民ニシテ消防組ノ服章ハ勿論右ニ類似ノ服章相用ヒ候儀ハ不相成儀ト心得フヘシ

●告示第七十五號 明治二十七年七月十二日

明治二十七年五月^五富山縣告示第四十七號滑川警察署水橋分署廳舎新築落成ニ付本月一日舊位置ニ復ス

●訓令第六十三號 明治二十七年五月十一日

警察署 警察分署

明治二十三年五月^五訓令第八十七號ヲ廢止ス

▲訓令第六十三號參照

訓令第八十七號ハ巡査駐在所新設及移轉廢止ノ節當廳第一部庶務課へ通知ノ件ナリ

●訓令第六十五號 明治二十七年五月二十一日

警察署 警察分署

消防組規則施行細則取扱手續左ノ通相定ム

消防組規則施行細則取扱手續

第一條 警察署長又ハ分署長ハ其所轄内消防組ノ新設又ハ變更ヲ要スト思料スルトキハ意見ヲ付

シ警部長ニ具申スヘシ

第二條 第一條新設ヲ要スル具申書ニハ左ノ各項ノ調査ヲ添付スヘシ

- 一 設置區域ノ町村若クハ大字名
- 二 區域内ノ戸數人口
- 三 組員ノ數
- 四 器具ノ種類及ヒ員數
- 五 數部ニ分割スル必要アルトキハ其部數及ヒ區域
- 六 設置ニ要スル經費ノ概算

第三條 部ヲ分チタル消防組ハ警察署長又ハ分署長ニ於テ土地ノ狀況ヲ斟酌シ可成大字ノ區域ニ依リ部ノ區域ヲ定メ之ヲ市町村長ニ移牒シテ其市町村内ニ告示シ尙ホ警部長ニ報告スヘシ

第四條 警察署長又ハ分署長ハ消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ事情ヲ具シ警部長ニ急報スヘシ

第五條 警察署又ハ分署ニ於テハ豫テ巡查ニ左ノ分掌ヲ命シ警部又ハ巡查部長ヲ以テ各掛長ニ充ツ掛長ハ署長ノ命ヲ受テ掛員ヲ指揮ス

火防ニアリテハ

一 唧筒掛 又ハ龍吐水掛

唧筒又ハ龍吐水ノ使用ヲ指揮シ兼テ水利ヲ指示シ且平素器械ノ整否ヲ監査スルモノトス

一 火先掛

消防手ヲ督勵シ專ラ火勢ノ防禦ヲ指揮スルモノトス

一 消防線掛

消防線ヲ警守シ消防組ノ行動ニ妨害ナカラシムルモノトス

一 救護

老幼婦女病者及ヒ危難ニ罹ラントスル者ヲ救護シ官署公署學校病院其他一般家財ノ搬出ヲ助ケ且飛火ヲ防キ偷盜ヲ警防スルモノトス

水防ニアリテハ救護掛ノ外尙ホ左ノ掛ヲ置ク

一 水防掛

消防手ヲ督勵シ專ラ家屋橋梁堤防等破壊ノ防禦ヲ指揮スルモノトス

一 通船掛

通船ニ乘込ミ諸人ノ交通及ヒ家財給水ノ運搬等ヲ指揮スルモノトス

消防組規則施行細則第四條ノ掛ヲ増加シタルトキハ從テ本條ノ掛ヲ增加ス
本條ノ分掌ハ兼務セシムルモノト得

第六條 警察署長又ハ分署長消防手ヲ採用スルトキハ豫メ便宜ノ方法ヲ以テ其區域内ニ公告シ志

願者ヲ募集シ消防組規則施行概則第四條第六條ニ抵觸セサル者ニシテ適當ノ者ヨリ選拔スヘシ
但組頭ヨリ推薦セシムルコトヲ得

第七條 警察署長又ハ分署長消防手ヲ採用スルトキハ親シク左ノ條件ヲ宣告シ誓書ヲ徴シテ採用
スヘシ

一 消防手タル者ハ消防組ニ關スル凡テノ規定ヲ遵守スヘキハ勿論常ニ警察官ノ命令ニ服從シ且
行狀ヲ慎ミ苟モ怠慢粗暴ノ行爲アルマシキ事

一 消防手タル者ハ常ニ組頭及ヒ小頭ニ服從スヘキハ勿論同列ノ間ニ於テハ和親協同ヲ旨トシ苟
モ相離反スルカ如キ所爲アルマシキ事

一 消防手タル者ハ最モ義氣ヲ重シシ事アルニ當テハ自己ノ危難ヲ顧ミス専心警防ニ從事シ苟モ
卑怯ノ舉動アルマシキ事

誓文

某儀

何消防組消防手ニ御採用ノ上ハ專心其職ニ從事シ御宣告ノ條々確ク相守リ誓テ違背仕間敷候
依テ誓文如件

年月日

住所
何 某印

第八條 警察署長又ハ分署長消防手ヲ命免シタルトキハ市町村長及ヒ組頭ニ通知スヘシ

第九條 警察署長又ハ分署長ハ組頭小頭ニ充ツヘキ者ヲ消防手中ヨリ左ノ資格ニ適合スル者ヲ選
擇シ警部長ニ具申スヘシ

一 組内ニ名望ヲ有シ多衆ヲ統轄スルノ才能アル者

二 消防事務ニ經驗アル者

三 普通ノ筆算ニ通スル者

四 滿二十五年以上ノ者

第十條 組頭部長小頭及消防手ノ辭令書式左ノ如シ

(組頭小頭ノ辭令奉書四ツ切)

何消防組消防手

姓 名

何消防組頭小頭ヲ命(免)ス

(部ヲ分チタルトキハ小頭ニ限リ
其傍ニ第何部編入ト記スヘシ)

年月日

富山縣警察部

(部長ノ辭令奉書四ツ切)

何消防組小頭

姓 名

何消防組何部長ヲ命(免)ス

年 月 日

富山縣何警察署又ハ何警察署何分署

(消防手ノ辭令美濃紙)

姓名何消防組消防手ヲ命(免)ス

(部ヲ分チタルトキハ其傍ニ第何部編入ト記スヘシ)

年 月 日

富山縣何警察署又ハ何警察署何分署

第十一條 消防組規則施行細則第十二條ノ部長ハ其部ノ小頭中適當ノ者ヲ選ヒ之ヲ命スヘシ但其人名ヲ警部長ヲ報告スヘシ

第十二條 組頭小頭ニシテ消防組施行概則第六條各項ノ一ニ觸ルトキハ警察署長又ハ分署長ヨリ直ニ警部長ニ具申スヘシ

第十三條 警察署長又ハ分署長ニ於テ組頭又ハ小頭身体ノ衰弱ニ依リ消防ニ從事スルコト能ハス又ハ其職ニ適セスト認ムルトキハ警部長ニ具申スヘシ

第十四條 消防組及部並組員ノ列次ヲ定ムル左ノ如シ

一 組ノ列次

賞票ノ多キ者ヲ先トシ賞票同數ナルトキハ賞票ヲ受ケタル前後ニ依ル

二 部ノ列次

部ノ組内ニ於ケル列次ハ組ノ列次ノ例ニ依ル他ノ消防組ニ對スルトキハ組同シキ者トス

三 組員ノ列次

組頭ハ組員ノ上席トシ部長ハ組頭ニ亞キ小頭ハ部長ニ亞ク賞票ヲ受ケタル者ハ組員同列中ノ席次ハ組ノ列次ノ例ニ依リ其他ハ年齢ノ順序ニ依ル

第十五條 水火災アルニ當リ所轄警察署長又ハ分署長臨場セザルトキハ既ニ臨場シタル他ノ警察官ニ於テ防禦ノ事ヲ指揮スヘシ

第十六條 警察署長又ハ分署長現場ニ臨ミタルトキハ樞要ノ場所ニ位置ヲ定メ晝間ハ旅夜間ハ高張提灯ヲ掲ケテ其所在ヲ表示スヘシ

第十七條 警察署長又ハ分署長消防組ヲ指揮スルトキハ指揮旗ヲ携帯スヘシ

第十八條 警察署長又ハ分署長水火災ノ防禦上必要ナリト認メタルトキハ隣接警察署長又ハ分署長ニ急報シ應援ヲ求ムルコトヲ得其求メテ受ケタル警察署長又ハ分署長ハ消防組ヲ指揮シテ迅速應援セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署長又ハ分署長之ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官代テ之ヲ爲スヲ得
前各項ノ場合ニ於テハ應接ヲ求メタル警察署長又ハ分署長ハ事後警部長ニ報告スヘシ

第十九條 警察署直轄又ハ分署所轄外ノ災害ニ消防組ヲ應接セシムルトキハ必ズ警察官之ヲ引奉
スヘシ

第二十條 警察署長又ハ分署長水火災ニアラサル他ノ災害ノ爲メ消防組ヲ召集シタルトキハ事實
ヲ具シ警部長ニ報告スヘシ

第二十一條 消防組區域外ノ災害ニシテ事機緊急警察官ノ指揮ヲ受クルニ暇ナク直ニ應接シタル
トキハ同時ニ組頭ヨリ其事由ヲ申出サシムヘシ

第二十二條 警察署長又ハ分署長ハ消防組警備及ヒ名簿ヲ調製シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第二十三條 消防組規則施行細則第十六條ニ依リ組頭ニ於テ調製スヘキ組員名簿及器具目錄ハ部
ヲ分チタルトキハ部毎ニ調製セシムヘシ

第二十四條 消防組規則施行細則第二十六條ニ依リ退場ニ際シテ點檢ヲ行フトキハ先ツ各組及ヒ
各部ヲ適宜ノ場所ニ整列セシメ左ノ項目ニ就キ精密之ヲ檢スヘシ

一 出場人員及ヒ死傷者ノ有無

二 器具及ヒ被服破損ノ有無

第二十五條 水火災鎮靜シタル場合ニ於テ其區域内ノ消防組ハ他ヨリ應接シタル消防組ニ先チテ
退場セシムルトキハ得ス

部ヲ分チタル消防組ニアリテハ災害地區内ノ部ハ他部ニ先チテ退場セシムルトキハ得ス

第二十六條 巡檢ハ左ニ掲ケル要目ニ照ラシ詳ニ之ヲ檢シ不備ノ點アラハ其事由ヲ糺シ相當處分
スヘシ

一 紀 律

二 器 具

三 被 服

四 組員名簿及ヒ器具目錄

組頭小頭其部下ノ取締行届クヤ否消防手ハ其上長ノ指揮命令ニ服従スルヤ否隊列ノ行動齊
一ナルヤ否分擔ノ職掌ヲ守ルヤ否

。唧筒又ハ龍吐水ハ其機關完備シテ且射力實用ニ適スルヤ否通船ハ船体堅牢ニシテ附屬ノ器
具完備スルヤ否懸旗其他ノ器具整備スルヤ否

保存其當ヲ得ルヤ否

配職方整理スルヤ否

前項ノ要目ヲ檢シ終レハ組員ニ對シ消防組ニ關スル諸般ノ規定其他緊要ノ條件ヲ懇篤訓示スヘシ
第二十七條 消防組規則施行細則第二十九條巡檢ノ期月ヲ變更セントスルトキハ警部長ニ稟議スヘシ

第二十八條 消防組規則施行細則第三十條ニ依リ臨時演習ヲ施行セントスルトキハ警部長ニ稟議スヘシ
第二十九條 演習ハ左ノ要目ニ依リ其迅速巧拙ヲ審判スヘシ

一 隊列ノ運動

集合整列行進等ノ方法

二 器械ノ運轉

唧筒又ハ龍吐水ノ裝置及ヒ使用ノ方法

迅速應變及ヒ通船進行ノ方法ハ適宜之ヲ行フヘシ

第三十條 巡檢又ハ演習ヲ爲シタルトキハ其都度狀況ヲ具シ警部長ニ報告スヘシ

第三十一條 消防組規則施行細則第三十二條ノ警戒ヲ要スルトキハ其狀況ニ依リ組又ハ部ノ全員若クハ其幾部ヲ召集シテ巡邏セシムヘシ

明治二十七年六月十八日
警察官制第六十九號
第三十三條
改正ス

巡邏ヲ行フトキハ必ス警察官監督巡視スヘシ

第三十二條 信號器ハ毎組一個所以上其數部ニ分割シタルモノハ可成毎部ニ設置セシムヘシ其位置ハ全區域ヲ見渡シ且信號ノ普及ニ便ナル地ヲ選定スヘシ

第三十三條 信號擔當者ハ信號器所在ノ近傍ニ住居スル消防手中ヨリ指定スヘシ

信號器警察署又ハ分署ノ構内ニアルトキハ其署ニ於テ擔當スヘシ

第三十四條 信號器ノ外水火災ノ場合ニ於テ寺院等ノ鐘樓ヲ應用スル箇所アルトキハ豫メ消防組規則施行細則第三十五條ノ信號打方ヲ指示シ之ニ準據セシメ濫リニ打鐘セシムヘカラス

第三十五條 消防器具置場ハ組若クハ部ノ中央ニシテ參集ニ便宜ナル地ヲ選定スヘシ

第三十六條 消防組規則施行細則第三十七條ニ依リ器具ノ員數ヲ定メ又ハ種類ヲ増減セントスルトキハ其事情ヲ具シ警部長ニ稟議スヘシ

第三十七條 通船ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ常備シ難キ事情アルトキハ市參事會又ハ町村長ヲシテ豫メ其區域内ニアル適當ノ船ヲ特約シ水災アルニ當リ臨時通船ニ供用セシムルモ妨ケナシ

第三十八條 消防組規則施行細則第三十九條ニ依リ組頭ヨリ器具ノ新調若クハ修繕ノ申出アリタルトキハ其事實ヲ調査シ實際必要ナルモノニ限リ同條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十九條 組頭ニ着用ヲ認可スヘキ洋服及ヒ帽ハ職務上ノ動作ニ適當ナルモノニ限ル

第四十條 消防組規則施行細則第四十八條ノ職務手當死傷手當ノ支給額ヲ定ムルトキ及ヒ同則第五十二條ノ辨當料等ヲ定ムルキハ事由ヲ具シ警部長ノ指揮ヲ乞フヘシ但療治料ハ此限ニアラス

消防組規則施行細則第五十一條ノ職務手當死傷手當ノ支給方法ヲ定ムルキハ警部長ニ稟議スヘシ

第四十一條 消防組規則施行細則第五十三條ニ依リ賞與スヘキ者アルトキハ左ノ各項ヲ調査シ意見ヲ付シ警部長ニ具申スヘシ

一 功勞ノ事實

二 組名部名

三 賞與ノ有無

四 平素ノ勤怠

組員ニ關スルトキハ前各項ノ外尙ホ左ノ各項ヲ要ス

五 住所氏名職業年齡

六 掛名及ヒ採用年月日

七 懲戒及ヒ刑罰ノ有無

八 數名共同ニ係ルトキハ功勞ノ等差

第四十二條 賞與ヲ行フトキハ左ノ區別ニ依リ富山市ニ設置シタル消防組ニ係ルトキハ照應ニ於

テ其他ノ市町村ニ設置シタル消防組ニ係ルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ授與ス

一 組ニ授與スルトキハ組頭其組ヲ代表シテ之ヲ受ケ其組ノ小頭授與ノ場所ニ參列ス

二 部ニ授與スルトキハ組頭其部ヲ代表シテ之ヲ受ケ其部ノ小頭授與ノ場所ニ參列ス

三 組員ニ授與スルトキハ組頭小頭其部ニ屬スル者ハ組頭及ヒ其部ノ小頭授與ノ場所ニ參列ス

四 賞與ヲ受クヘキ消防組區域内ノ市町村長及ヒ市參事會員市町村會議員及ヒ曾テ賞與ヲ受ケ

タル消防組員ハ授與ノ場所ニ參觀スルコトヲ得

五 消防組員ハ授與ノ場所ヲ參觀スルコトヲ得

第四十三條 組頭小頭ノ懲戒ニ付スヘキ所爲アルトキハ左ノ各項ヲ調査シ意見ヲ付シ警部長ニ具

申スヘシ

一 懲戒ニ付スヘキ事實及情狀

二 賞罰ノ有無

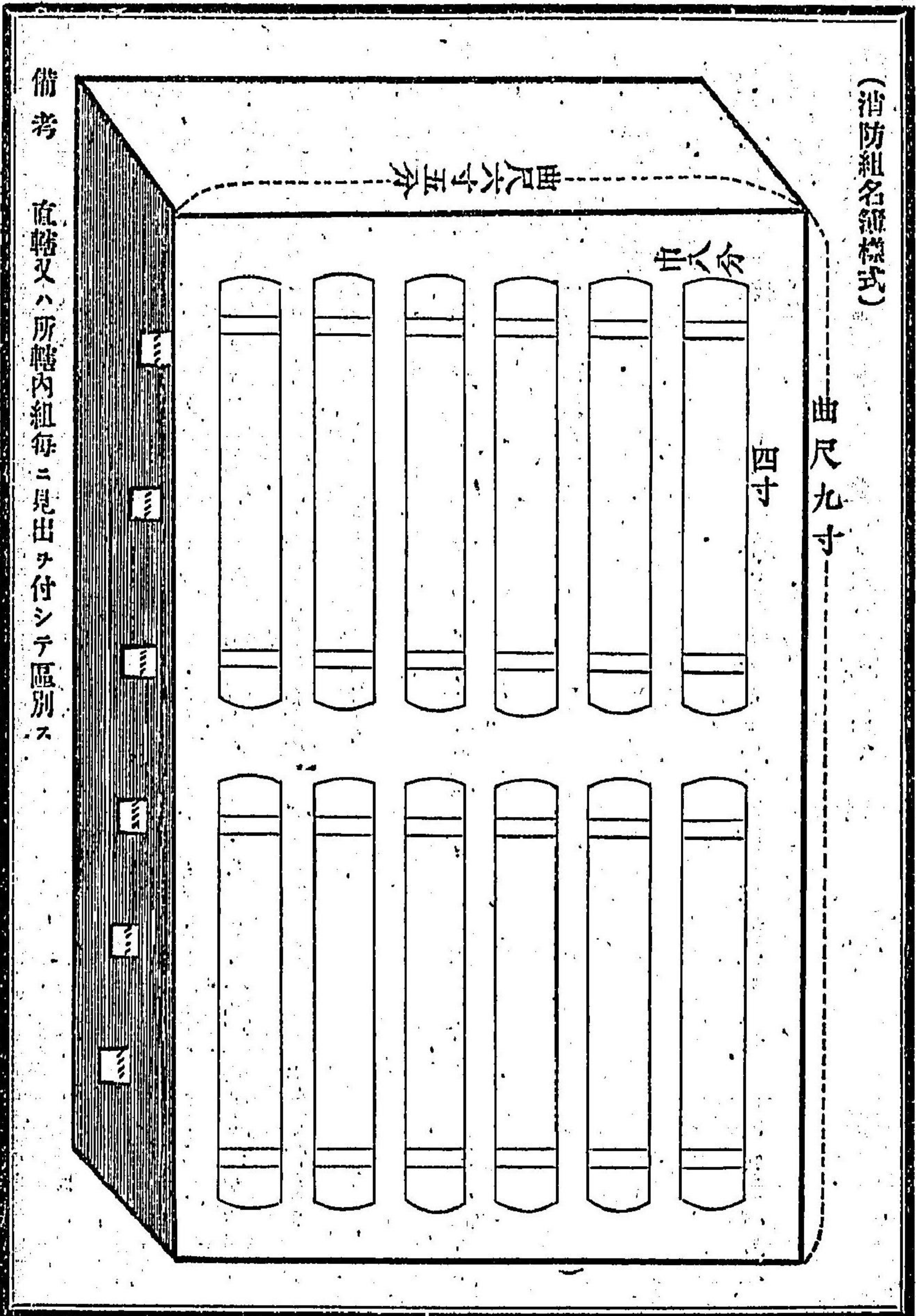
三 平素ノ勤怠

第四十四條 消防組員ニ對シ懲戒ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ警部長ニ報告シ市町村長及ヒ組

頭ニ通知スヘシ

第四十五條 此手續ニ係ル各種ノ様式ヲ定ムル左ノ如シ

(消防組名簿様式)



(消防組名簿記載例)

長	水防掛	組頭	何消防組	長	火先掛	長	唧筒掛
官	官	何	官	官	官	官	官
氏名	氏名	某	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
			小頭	第一部	通船掛		
	唧筒掛	經持	(唧筒掛又ハ何掛)	部長	長		
同	消防手	消防手	何	何	官	官	官
何	何	何	何	何	氏名	氏名	氏名
某	某	某	某	某	氏名	氏名	氏名

備考 本例ハ前様式ノ名札一枚ニ一人ノ官氏名又ハ氏名ヲ記シ同式ノ如ク挿入スルモノトス	水防掛	同	同	同	同	同	同	火先掛	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	某	某	某	某	某	某	某	通船掛	某	某
以下之ニ倣フ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	某	某	某	某	某	某	某	某	某	某

(消防組進帳ノ様式ノ一)

(用紙半紙)

設置ノ年月日	設置ノ區域	部數	組員	發備費	何消防組
明治何年何月何日	大字何町村	幾部	組頭一人 小頭一人 消防手何人	金何圓 金何圓 金何圓 職務手当 死傷手当 何々	
組	部	員	組員	考備	賞
明治何年何月何日何々ニ付何賞ヲ受シ	第何部以下前全上		賞票ヲ有スル者何人 賞金ヲ受ケタル者何人 賞狀ヲ受ケタル者何人		

(消防組臺帳様式ノ二)

防何組第何部	部ノ		區域	置器具	信地	部					賞		
	員	部				何々	掛通船	掛水防	掛火先	掛唧筒	員	部	
何部	何人	何人	何町村大字何々何番地	何町村大字何々何番地	何町村大字何々	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
明治何年何月何日何々ニ付何賞ヲ受ク	賞票ヲ有スル者	賞金ヲ受ケタル者	賞狀ヲ受ケタル者	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人

備考 本様式ハ部ヲ有スル組ノ例ヲ示シタルモノニシテ若シ數部ヲ有スルモノハ其部數ニ應シ各別ニ調製スヘシ又部ヲ有セサル組ニ係ルモノハ一式ト二式トテ一表ニ調製スルヲ要ス而シテ本表ハ別紙三式名簿ノ卷首ニ附シ一冊トナスヘシ數組アルモノハ見出テ附シテ區別シ其大部トナリ不便アルモノハ適宜數冊トナスモ妨ケナシ

(消防組臺帳様式ノ三并ニ消防組ニ備フヘキ組員名簿様式) (用紙半紙)

住所族 何郡市町村大字何々何番地住又ハ寄留
籍職業 士族又ハ平民戸主又ハ某長男又ハ次(三)男何業
氏名生 組頭、小頭、消防手 何 某
年月 何年何月何日生

所屬ノ組部名	就職年月日	賞	掛名	給額及種別	備考
何消防組又ハ何消防組第何部	明治何年何月何日	明治何年何月何日何々ニ付何賞ヲ受ク	唧筒掛又ハ何掛	何手常何程	明治何年何月何日組頭又ハ小頭ヲ命セラル又ハ第何部長ヲ命セラル
何消防組又ハ何消防組第何部	明治何年何月何日	明治何年何月何日何々ニ付何賞ヲ受ク	何掛	何手常何程	明治何年何月何日何々ニ付罷責ヲ受ク又ハ停職何ヶ月ニ處セラル

住所 氏名 籍業 生	年 月	所 屬 組 部 名	就 職 年 月 日	賞 給	考 備	給 額 及 種 別		備 考
						掛 名	種 別	
								備考 本名簿ハ半面ヲ以テ一人ニ用ユルモノニシテ一葉ハ二人分ノ名簿ニ充ツルモノトス (消防器具目錄様式) (用紙半紙)
器具目錄								
何消防組								
								何形 一臺 購入年月日 價格 何圓 水勢 何寸 管鉛口徑 何寸 水管 何間 附屬品 何個 何々 何個

住所 氏名 籍業 生	年 月	所 屬 組 部 名	就 職 年 月 日	賞 給	考 備	給 額 及 種 別		備 考
						掛 名	種 別	
								器具目錄
								何消防組第何部
								何々 何挺 一本 明治何年何月何日新調 窓口 何本 全上 高張 何本 全上 提灯 何張 全上 通船 何艘 全上 又ハ何某ヨリ借上 特約ニ係ル 何々 何々 何々 何々 何々 何々 何々 何々 何々 何々
								一唧筒及纏又ハ何々ハ器具置場ニ保管セリ 一通船何艘ハ何町村何某へ貸與シアリ

樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞
窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓	窓
高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
張	張	張	張	張	張	張	張	張	張
提	提	提	提	提	提	提	提	提	提
燈	燈	燈	燈	燈	燈	燈	燈	燈	燈
通	通	通	通	通	通	通	通	通	通
船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々
何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々

備考 部ヲ別チタルモノハ部毎ニ目錄ヲ調製ス

考 備

訓令第六十六號 明治二十七年五月二十五日

郡市役所

氷雪請賣取扱手續左ノ通相定ム

氷雪請賣取扱手續

第一條 氷雪請賣鑑札ハ左記書式ニ依リ罫帳ト割印ヲ捺シ(郡市役所)ノ印下付スヘシ

但鑑札裏面年號ハ其年ヲ記載スヘシ

第二條 氷雪請賣者改氏名ニ依リ鑑札書換出願スルトキハ其書換シタル理由ヲ鑑札裏面ニ朱記シ

其移轉ニ係ルモノハ訂正シ鑑札裏面ハ前同様朱記シ下付スヘシ

第三條 氷雪請賣鑑札下付ノ際何某請賣人ト記シ其人名所轄警察署又ハ分署ヘ通知スヘシ

第四條 鑑札用紙ハ警察部ヘ請求スヘシ

第 號

富山縣何郡(市)何町(村)大字
何町(村)何番地(寄留)

富山縣何郡(市)何町(村)大字
何町(村)字何番地貯藏氷雪 何 某
(山谷氷雪)何某許可ノ分

右氷雪請賣免許候事

明治 年 月 日

富山縣印

裏 面

此免許鑑札ノ有効ハ明治何年限リ

何郡市役所

印

訓令第八十六號 明治二十七年七月二十七日

郡市役所 警察署

警察分署 町村役場

本年五月富山縣令第三十四號消防組規則施行細則第五十三條及第五十四條ニ依リ施行スル賞與ノ費用ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一賞與費ハ市町村費整備費中ニ於テ相當ノ豫算ヲ設クヘシ

一賞與ノ施行アリタルトキ警察署分署ハ賞與ニ在リテハ直ニ現品ヲ調製シ其價額及辭令書寫ヲ添ヘ金圓賞與ニ在リテハ辭令書寫ヲ添ヘ所轄市役所又ハ町村役場ニ通牒スヘシ
 一市役所又ハ町村役場ニ於テ前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ其金額ヲ支出シ賞與代金ハ請求者ニ賞金ハ受賞者ニ支給スヘシ

●訓令第八十八號 明治二十七年八月二日 警察署 警察分署
 左ノ達ヲ廢止ス

明治十七年八月警第百四十三號 (勸懲調査表ノ件)

明治二十年三月三 月達第百九十四號 (警察報告例)

明治二十一年四月達第二百七十四號 (警察通報規則)

●訓令第九號 明治二十七年十月四日 射水郡役所 富山市役所
 高岡市役所 伏木町役場

本年十月十縣令第五十四號建物制限規則ヲ施行スヘキ市町ニシテ土地ノ狀況ニ依リ該制限ニ依リ難キ部分アルトキハ其事情ヲ具シ略圖ヲ添ヘ上申スヘシ

●訓令第百一十一號 明治二十七年十月十二日 警察署 警察分署

建物制限規則取扱手續

建物制限規則取扱手續

第一條 建物制限規則第一條ノ届書ニハ起工及落成ノ豫定期日ヲ記入セシムヘシ

第二條 建物制限規則第一條ノ届書認可シタルトキハ其工事中現場見易キ箇所ニ左ノ木札ヲ掲出セシムヘシ

明治何年何月何日警察(分)署認可	新築 (改造) 何々幾棟	竪 三尺
起工 明治何年何月何日	届人	幅 一尺
落成 明治何年何月何日	氏名	

第三條 建物制限規則第二條但書ノ假家屋ノ建設ヲ許可シタルトキハ其家屋ノ前面ニ左ノ木札ヲ掲出セシムヘシ

明治何年何月何日警察(分)署届済	竪 一尺八寸
假家屋 届人	幅 五寸
氏名	

第四條 建物制限規則第四條ノ檢査ニ際シ其構造同則第一條ノ制限ニ適セサル所アリテ改造ヲ命シタルトキハ其期日迄ニ改造スヘキ旨ヲ明記シタル受書ヲ差出サシムヘシ

第五條 新築又ハ改造ノ工事適當ニ落成シタルトキハ左ノ様式ニ依リ検査済ノ証ヲ附與スヘシ

富山縣何郡(市)町(村)大字何町(村)何番地ニ於テ

家屋(倉庫)幾棟 明治何年何月何日落成

右何某ノ建築(改造)シタル建物明治二十七年富山縣令第五十四號建物制限規則第一條ノ

構造ニ適當シタルモノト檢定ス

年月日

何警察(分)署長

警部 氏 名

印

第六條 警察署分署ニ於テハ三月毎ニ左ノ様式ニ依リ建物制限規則取扱表ヲ調製シ警部長ニ報告スヘシ但取扱事項ナキトキハ其旨報告スヘシ

建物制限規則取扱表

規則第一條所出 認可	何件	規則第三條ノ改造 検査済證ヲ附與 シタルモノ	何件
規則第一條所出 不認可	何件	規則第三條ノ改造 検査済證ヲ附與 シタルモノ	何件
合計			

規則違反ノ告發

第何條違反 何件

第何條違反 何件

●達 甲 第四號 明治二十七年六月十五日

警察署 警察分署

明治二十六年九月九日達 甲 第四號警察署分署事務規程中左ノ通改正ス

第十九條第二項但書

但大久保城端ノ二分署ハ全町村ノ周到ヲ六個月一回ニ減スルコトヲ得

第二十三條 巡查部長ハ左ノ程度ニ依リ巡視スヘシ

一 各受持區ヲ一日一回 富山警察署 以上

一 各管區ヲ一個月三回 八尾警察署及大久保城端 以上

前項ノ巡視ニ依リ二個月一回 八尾警察署及大久保城端 ハ必ス全町村(各火)ヲ周到スヘシ

▲達 甲 第四號參照

達 甲 第四號(明治二十六年九月八日)抄錄

第十九條 分署長ハ左ノ程度ニ依リ巡視スヘシ

一 各受持區ヲ一個月四回以上

一 各管區ヲ一個月二回以上

前各項ノ巡視ニ依リ三個月一回ハ必ス全町村(各火)ヲ周到スヘシ

但城端分署ハ全町村ノ周到ヲ六個月一回ヲ減スルコトヲ得

第二十三條 巡査部長ハ左ノ程度ニ依リ巡視スヘシ

一 各受持區ヲ一日一回(富山警察署)以上

一 右管區ヲ一个月三回以上

前項ノ巡視ニ依リ二个月一回ハ必ス全町村(各六)ヲ周到スヘシ

●訓第一一二號 明治二十七年十月十日

射水郡役所

富山市役所

高岡市役所

伏木町役場

本年訓令第九九號ニ依リ其土地ノ狀況建物制限規則ニ依リ難キ部分ト見認メ上申セントスルトキハ豫メ所轄警察署長又ハ分署長ニ協議ヲ遂クヘシ

右訓令ス

●第十六類

●統計及報告

●訓令第八十五號 明治二十七年七月二十七日

市役所

町村役場

統計及報告ハ事務ノ成績ヲ表示スルモノナルニ付其調査ノ不行届ハ直チニ事務ノ滞滯ヲ推想セシムル虞アリ故ニ其材料蒐集ニ精確ヲ要スヘキハ勿論殊ニ報告期限ヲ遷延スルカ如キハ甚ダ不都合ニ條條將來報告期限ニ必ス報告候様篤ク注意スヘシ

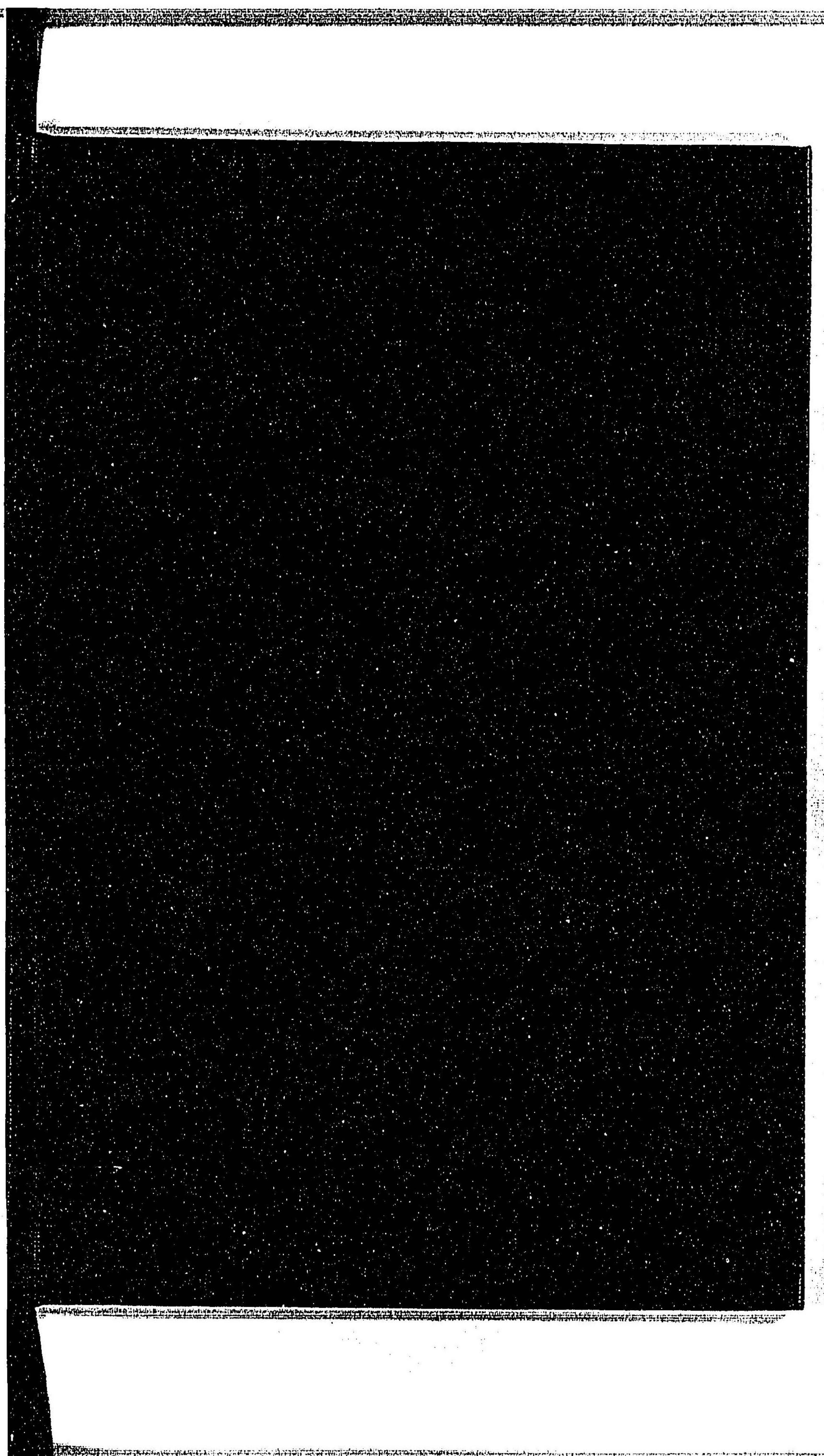
明治二十八年三月二十五日印刷
明治二十八年三月三十日發行

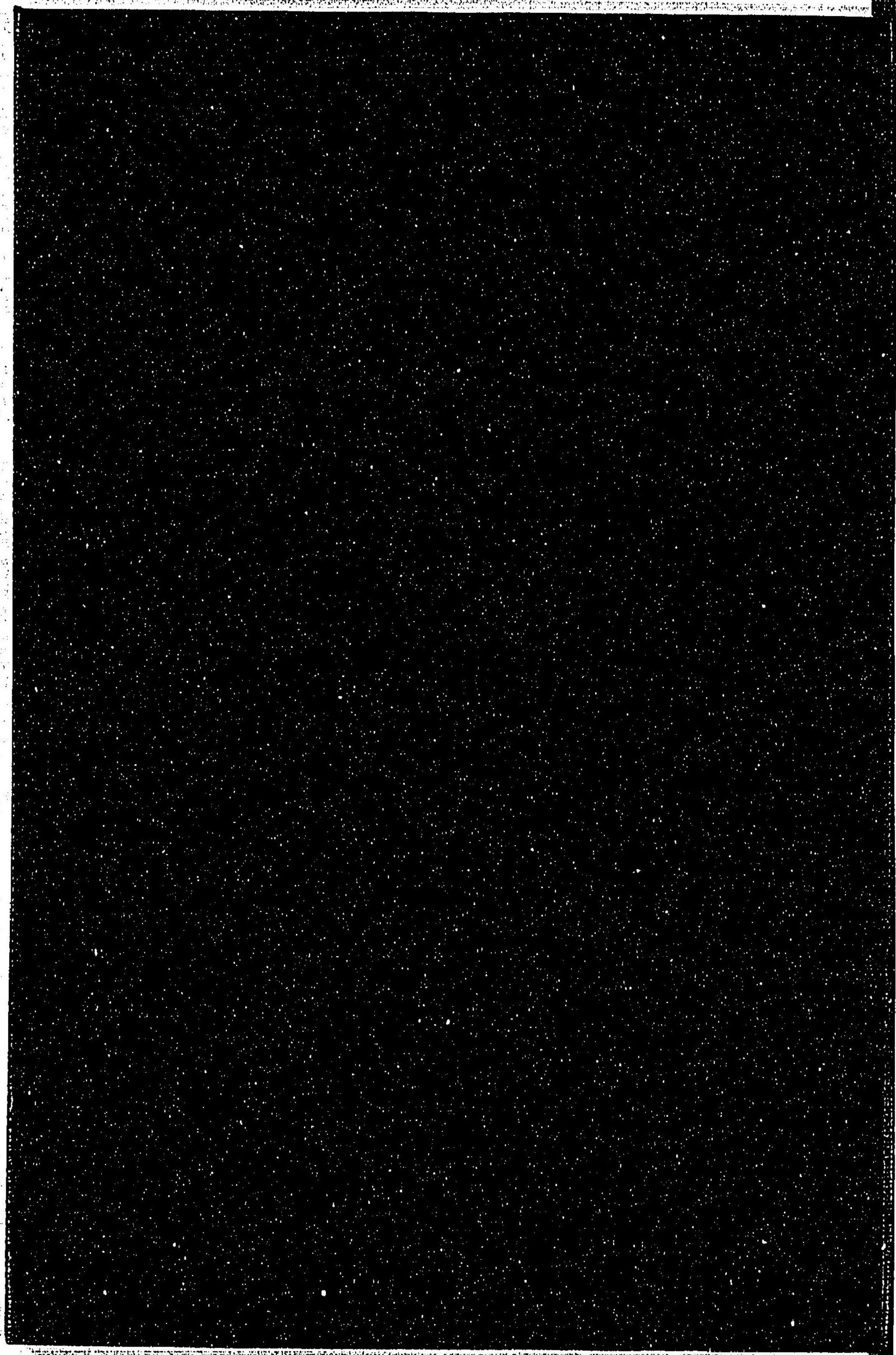
富山縣知事官房

石川縣金澤市穴水町二番丁二十九番地

印刷者 生沼倍男

427A-53





[Faint, illegible text on the left page of the spread]

[Large, mostly blank area on the right page, possibly containing a large figure or diagram that is not clearly visible]